

システムズアプローチとアウトリーチによる 家庭教育支援の考察と実践

家庭教育支援センター
ペアレンツキャンプ



ペアレンツキャンプの概要



組織概要

組織名 一般社団法人 家庭教育支援センター ペアレンツキャンプ
代表者 代表理事 水野 達朗 (Tatsuro-Mizuno)
所在地 大阪本部 大阪府大阪市北区天神橋1丁目19-15大証ビル303号
東京分室 東京都新宿区西新宿7-21-9天翔西新宿ビル401号
医療・健康問題研究所内

活動内容 1・家庭内問題に対する親へのカウンセリング
2・不登校児童及び生徒への訪問カウンセリング
3・学校教育と地域教育に関する人材育成及びコンサルティング
4・家庭教育の普及のための講演活動及び出版活動

代表者著書



ころんでも立ち上がれる子はあなたが育てる
～不登校の小学生が悩む「学校が怖い」「学校へ行きたくない」の正体～

牧歌舎 2013年4月出版



ころばぬ先の家庭教育
～長期不登校になる前に学んでおきたい親の対応法 中学生編～

牧歌舎 2011年4月出版



ころばぬ先の家庭教育
～きょうからできる家庭力アップ 小学生編～

文芸社ビジュアルアート
2009年1月出版

ペアレンツキャンプの支援内容



Essence 1 不登校を乗り越えるための不登校復学支援



アウトリーチ型の**ダイレクトアプローチ**と
システムズアプローチをハイブリッドした新しい支援のカタチ
問題解決型

Essence 2 子どもの自立を家庭で育む家庭教育支援



システムズアプローチで家庭教育を変える！子どもの自立心や
社会性を伸ばすオーダーメイド型支援
予防・開発型

Essence 3 子どもたちの未来のための社会的支援

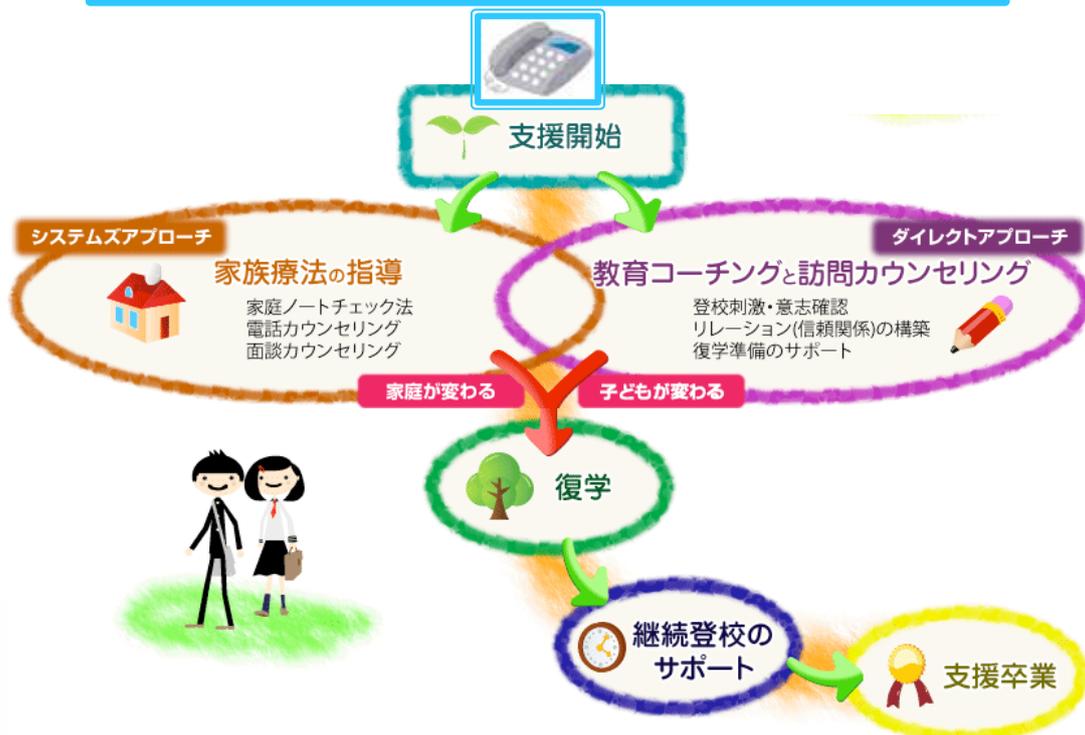


家庭教育啓発活動
官民協働プロジェクト
他のNPOと協力した寄託事業

システムズアプローチとダイレクトアプローチ



ペアレンツキャンプの不登校復学支援のケース



システムズアプローチとは



PCMの理論を用いて家庭内での親子関係にアプローチしていく手法です。！
家族療法の考え方をベースとしており、具体的には電話カウンセリングや
家庭ノートチェック法という手法を用います。！

子どもに直接アプローチするのではなく、親の会話や対応が変わることによって子どもも変わるというものです。！



家庭教育アドバイザー

システムズアプローチ

電話カウンセリング！
家庭ノートチェック法



P C M と は



PCM (Parents Counseling Mind) の理論は、当センターの支援メソッドで、カウンセラーの対話スキル、基本的な子育て論等を組み合わせて家庭内で実践しやすい形に変えたものです。

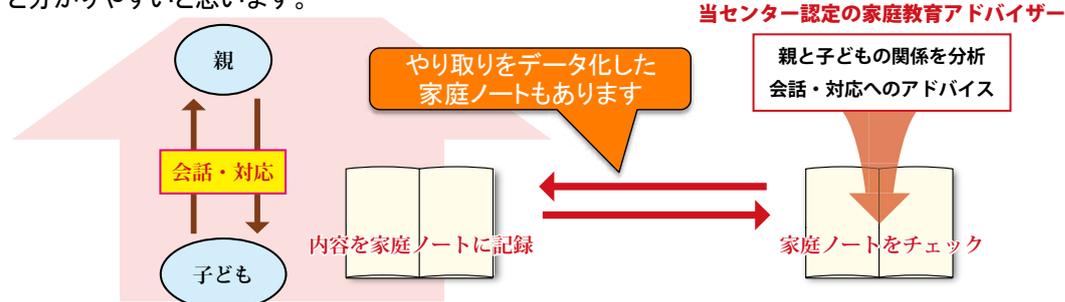
PCMの理論には次の11本の柱があります。

- 1 アクティブリスニング
- 2 アイメッセージ
- 3 命令・指示・提案を極力避ける
- 4 子と同レベルの言い合いをしない
- 5 親の問題と子の問題を分けて考える
- 6 先回りしてものを言って子どもの経験を奪わない
- 7 不足不満を言わない
- 8 親の価値観を押しつけない
- 9 悲しいときには悲しい顔で、うれしいときにはうれしい顔で
- 10 叱り役の立場を下げない
- 11 ターンテーキング

家庭ノートチェック法とは



家庭ノートチェック法とは、親子会話や子どもの行動を親が記録し、それに対して家庭教育アドバイザーが個々のケースに合わせたアドバイスや分析、そして親からの質問への回答を行う手法です。やりとりは大学ノートの郵送やメールによる送信で行います。通信教育における添削型指導方法をイメージしていただくと分かりやすいと思います。



家庭ノートチェック法の特徴

- 様々な家庭の問題の原因となる「過保護・過干渉」などの親子関係を見直す事ができる。
- 親が学ぶ事によって、子どもの社会性や年相応の自立心が育まれる。
- 子どもが社会性や年相応の自立心を身につける事で将来のキャリアデザインに良い影響を与える。
- 親が自発的、継続的に家庭教育を学ぶ事で、子育て、親育ちを実感し、喜びを感じられる。
- 家庭の力を伸ばす事で、不登校や非行などの様々な問題を予防することが期待できる。
- 通信教育型なので、家にいながら支援を受ける事ができ、各家庭のライフスタイルに合わせる事ができる。
- 自分の子育てを客観視する事ができ、親と子の気付かなかった傾向や問題点を認識できる。
- 親の具体的な悩みの相談ができ、また過去の相談内容を振り返る事ができる。
- 最終的には家庭の力だけで様々な問題を乗り越える事が期待できる。

家庭ノートの例(小学生の家庭の会話)



時間	人	会話内容・簡単な状況説明	感想・質問・備考／添削
6:45	母子	6時45分よ。早く起きなさい！ う〜ん(少しして起きるが不機嫌)	時間を告げるだけにしましょう。朝の一言で子どもをイライラさせてしまう恐れがあります。 「6:45だよ」と時間を告げるだけにしましょう。
7:00	子母	お母さん、おはよう〜 うん、おはよう〜 あれ？まだ着替えてないの？ うん	いつ着替えるかは子に任せましょう。言われなくても、出来る子にしたいですね。
	母子	早く着替えたほうが良いよ	
	子	うん	
		着替えなかった結果を経験させましょう	
7:20	母子	今日、寒って天気予報で言ってたよ そうなんだ その格好だと寒いと母さんは思うなあ う〜ん.....、だけど、このままでいい ふ〜ん、そう。でも、マフラーだけでもいい きなよ。	気持ちを伝える対応 寒いと感じるかは子ども次第 本人が「このままでいい」と言っているので任せてみましょう。その経験で子は成長します。
	子母	え〜.....！ もう、うるさいなあ！	
	子母	親に向かって『うるさいなあ！』はないでしょ！！ 教えてあげているのに！！	本人から「教えて」と言ってきた訳ではありません。押し付けになっています。
	子	

黒文字は親による家庭ノートの記入
赤文字は家庭教育アドバイザーのチェック

家庭ノートの例(中学生の家庭の会話)



時間	人	会話内容・簡単な状況説明	感想・質問・備考／添削
22:00	母 子 子 母 子	制服とカバンだけど、夕方に片付けをお母さんしたいんだけど、あなたの制服とカバンがこのままだと掃除しにくくて困るわ うん、わかってるよ(片付ける) お風呂沸いてる？ うん、沸いてるよ (風呂へ)	タイミングを考えてアイメッセージで伝えると子はメンテよりも反発しません。 冷静に対応出来ています。 アイメッセージOK! 会話がかみあっていますOK!
22:40	子 母 子 母 子	今日はもう寝るよ。おやすみえ？明日の勉強は？ (イライラした様子で)塾でしてきたって言ったでしょ！もう、うるさいんだよ！ (ドタドタと足音をならして自室へ)	子の問題に干渉してしまっています。タイミングも悪いですね。 ここは「はい、おやすみ」で良かったでしょう。 1日の最後に嫌な終わり方をしています。親も子もモヤモヤしてしまったのではないのでしょうか。明日は冷静にメンテを控え、対応をしていきましょう。

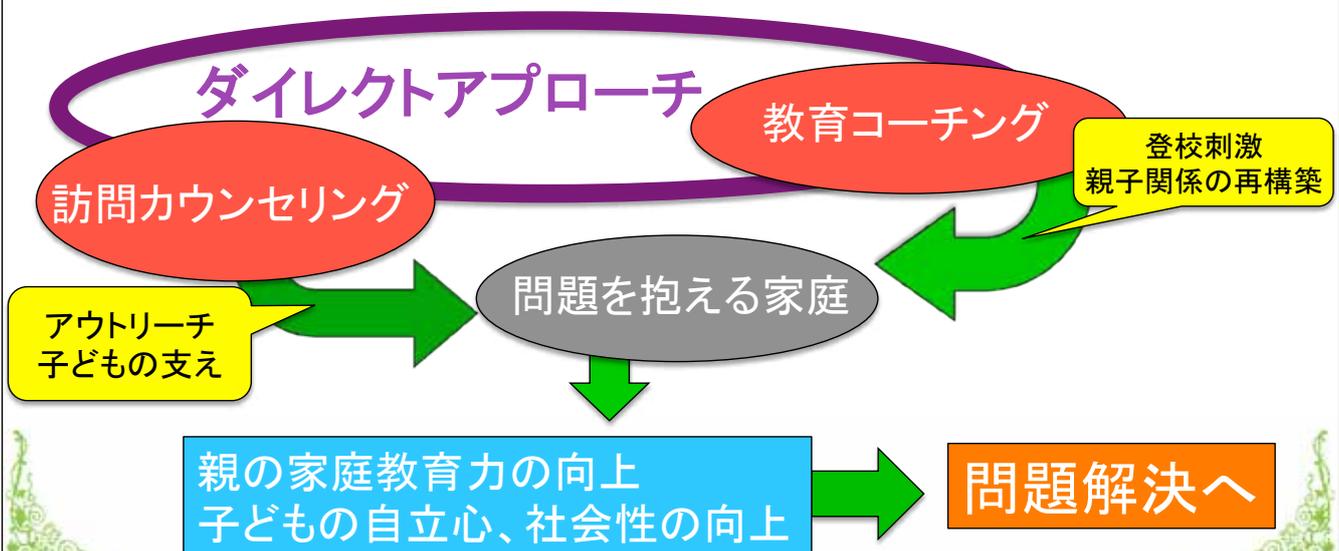
黒文字は親による家庭ノートの記入
赤文字は家庭教育アドバイザーのチェック

ダイレクトアプローチとは



不登校などの問題を抱える家庭に対して、研修を受けた訪問カウンセラーが家庭に訪問して、「訪問支援(アウトリーチ)」やカウンセリングなどを行い問題解決のサポートをするという支援のことです。

アクスラインの非指示的遊戯療法を取り入れ、子どもに寄り添い、遊びの中でコミュニケーションをはかり、子どもが抱えている問題をひも解き、その不安を和らげ、子ども自身が問題を解決していく過程を寄り添いサポートしていく支援のことです。



訪問カウンセラーの現場風景



システムズアプローチ型支援の現状と課題



システムズアプローチ型支援のメリット

- 個々の家庭の親子関係にアプローチする事によって、過干渉や過保護などの線引きを明確に。
- 子どもの社会性や年相応の自立心を育む家庭教育を実践する事によって、不登校などのリスクを減らす。
- 子どもの社会性や年相応の自立心を育む家庭教育を実践する事によって、子どもの将来のキャリアデザインに良い影響を与える。
- 自らの家庭の状況を見直したり、専門家の分析を受ける事によって、親と子の気づかなかった傾向や問題点を認識し、家庭教育に活かす事が出来る。
- 親が自発的、継続的に家庭教育を学ぶ事で、子育て、親育ちを実感し、喜びを感じられる。
- 親の家庭教育力を高める事によって、最終的には家庭の力のみで様々な問題に対応できるようになる。

システムズアプローチ型支援のデメリット

- 「分析→実践→積み重ね→変化」というプロセスをふまえるため、効果が見られるまである程度の時間が必要なケースがある。
- 不登校などの問題が既に起こっている場合はシステムズアプローチ型支援だけでは学齢期中での解決が難しいケースがある。
- 親の「学ぼう、変わろう」という姿勢が前提となるため、支援の動機付けが困難となるケースがある。

アウトリーチ型支援の現状と課題



アウトリーチ型支援のメリット

- 子どもへ直接ダイレクトにアプローチできるので、問題が起こっている家庭に対して即効性のある支援が期待できる。
- 家庭内で親が対応しきれない問題などにも、直接支援スタッフ(訪問カウンセラー・メンタルフレンド)が入る事で問題解決へとつなげる事が出来る。
- 児童虐待、育児放棄など親に重度の問題がある場合直接支援スタッフが入る事で対応する事が出来る。
- 親に話をしにくい内容でも、リレーションを構築した支援スタッフに対して子どもが心を開いて悩みを相談しやすい。

アウトリーチ型支援のデメリット

- アウトリーチのサポーターが離れると再び問題が発生する可能性がある。
- 対症療法的になりがちであり、根本的な家庭内の原因を解決する事が難しいケースもある。
- それぞれの家庭ごとに手厚く対応しようとする人材、予算、時間の確保が厳しい。
- 家庭の受け入れ態勢に温度差がある。

併用することでのプラス面



アウトリーチ型支援

子どもへの直接対応
深刻なケースへの支援
即効性の強い支援
対症療法的問題解決

互いの支援
からの
フィードバック



互いの短所をカバー

システムズアプローチ型支援

親へのアプローチ
軽度なケースへの支援
持続性の強い支援
家庭の体質を変える

2つの支援をハイブリッドした
新しいカタチの家庭教育支援

2つの支援を併用する事で

お互いの短所をカバー
できる。
クライアントの情報を
共有化する事によって
互いの支援に活かす。

今後のアウトリーチ型支援の展望



アウトリーチ型支援のみでは解決できない問題の解決やリスク要因がある家庭へもれなく、効果的に、迅速に対応するために、家庭教育支援チームを中心とした包括的な支援モデルにシステムズアプローチを加える事を提唱します。

今後の展望

学校単位、自治体単位でのシステムズアプローチ型支援による予防、開発的支援の実現

既存の支援体制に親子関係を分析しアドバイスするシステムズアプローチ型を加える事によって今まで以上に効果の高い家庭教育支援体制が構築されることが望まれる。

実際に問題を抱えたケースに関してはアウトリーチ型支援とシステムズアプローチ型支援をハイブリッドさせた包括的支援を実現



次世代の包括的家庭教育支援イメージ

ご清聴ありがとうございました。



事例報告者 水野達朗

家庭教育支援センター
ペアレンツキャンプ

